「小浜の森の夏の植物」③（平成 29 年８月編）

撮影・作成：流尾哲也

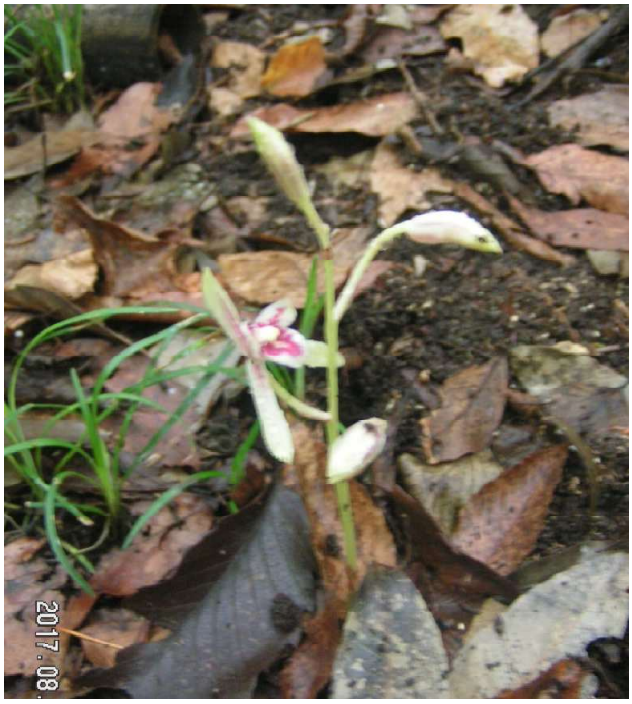
【マヤラン（摩耶蘭）発見号】

８月の森の周辺にはクサギの花が目立つ。

４本の長いおしべの糸がおもしろい。

イヌザクラの実が色づいてきた。（８月４日）黒く熟した実を食べるとほのかな甘みがあった。

森の周遊道路からキノコが見えたが、この真夏にシイタケ？と思いつつ近づくと最大 14cm にも傘を広げたシイタケだった。ふと足元に花が見えたが、それは探し求めていたマヤラン（摩耶蘭）の花だった。感激！　葉はない。（右の写真）



マヤランはシュンラン属だけに花は似ている。
開花株の周辺を慎重に探すと２本の蕾の株を発見。
蕾の株はボールペン（14cm）の半分ほどの背丈だ。
（右の写真）

森の中の半日陰にはヤブミョウガの白い花が目立つ。ミョウガの仲間でなくツユクサ科だ。

ハナイカダの実も黒く色づいている。

この実は食べられる？　試食はやめた。

北部植栽ゾーンのホオズキも色づき始めた。

昨日発見のマヤランの２番花はまだだ。(８月５日)

【立秋の日（８月７日)】

クリのイガはまだ小さいがエノキの実は黄色く色づき始めた。褐色になると甘くなる

アカメガシワの花は高いところで気づかずに咲いて、実になっていた。右は実の拡大。

ガンクビソウ（雁首草）はひょろりと長くて葉と花を一緒に撮りづらい。

ガンクビソウはキク科で、その頭状花はキセルの雁首に似ている。

ヤブラン（ユリ科）は森の中のわずかな木漏れ日を受けて生きている。花はまだ蕾だ。

ミズヒキもわずかな木漏れ日で

小さな花を咲かせている。

ミズヒキの花は上からは赤く、下からは白く見えるので水引の名がついた。

マヤランの花（左）は大きくも見えるが、実際（右）は１０ｃｍ前後と小さい。（８月１１日）

花後の種子の鞘の株は 8cm と小さい。

シイタケ栽培の隣の発生場所に笹の茎を刺した。

他の樹木に絡まって咲くヘクソガズラの花。

名前はかわいそうだが、花は美しい。
（少しピンボケになりました。）

夜に咲くカラスウリの花（森の北東の道べり）

レース状の花弁が妖艶だ。（夜７時撮影）

【今月の花】

マヤラン再登場（千葉県での希少種）マヤランは無葉蘭で、シュンランに近い種。

神戸六甲の摩耶山で発見されたので摩耶蘭と命名された。
皇居東御苑では二の丸雑木林の散策路周辺に多く見られる。花期は７～９月。
（左は発見時８月４日）
（右は８月 11 日撮影）